



ホスト ルートの ECMP の設定

この章では、Cisco NX-OS スイッチにホスト ルートの等コスト マルチパス (ECMP) プロトコルを設定する方法について説明します。

この章は、次の内容で構成されています。

- 「ホスト ルートの ECMP に関する情報」 (P.10-1)
- 「ホスト ルートの ECMP のライセンス要件」 (P.10-1)
- 「ホスト ルートの ECMP の前提条件」 (P.10-2)
- 「デフォルト設定」 (P.10-2)
- 「ホスト ルートの ECMP の設定」 (P.10-2)
- 「ホスト ルートの ECMP 設定の検証」 (P.10-3)
- 「ホスト ルートの ECMP の設定例」 (P.10-4)
- 「その他の関連資料」 (P.10-4)

ホスト ルートの ECMP に関する情報

ホスト ルートの ECMP のサポートをイネーブルにすると、すべてのユニキャスト ホスト ルートは最長プレフィックス 一致アルゴリズム (LPM) テーブルにプログラムされます。ホスト ルートの ECMP はスイッチ ハードウェアで提供されます。 **hardware profile unicast enable-host-ecmp** コマンドを使用して、CLI でこの機能を設定します。



(注) ECMP が IPv4 (/32) ルートおよび IPv6 (/128) ルート用に設定されている時、ホスト エントリはホスト テーブルではなく LPM ルーティング テーブルに保存されます。

ホスト ルートの ECMP のライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	ホスト ルートの ECMP にはライセンスは不要です。ライセンス パッケージに含まれていない機能はすべて Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、追加費用は一切発生しません。NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

ホスト ルートの ECMP の前提条件

ホスト ルートの ECMP には次の前提条件があります。

- このコマンドを使用する前に、**system urpf disable** コマンドを使用して、スイッチのユニキャスト リバース パス転送 (URPF) をグローバルにディセーブルに設定し、設定を保存してから、スイッチをリロードすることを推奨します。URPF をグローバルにディセーブルにすると、LPM テーブル サイズが拡張されます。

デフォルト設定

ホスト ルートの ECMP はデフォルトでディセーブルです。

ホスト ルートの ECMP の設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「[ホスト ルートの EMCP 機能のイネーブル化](#)」(P.10-2)

ホスト ルートの EMCP 機能のイネーブル化

ホスト ルートの ECMP 機能をイネーブルにできます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. (任意) **system urpf disable**
3. **hardware profile unicast enable-host-ecmp**
4. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ1	configure terminal Example: switch# configure terminal switch(config)#	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ2	system urpf disable Example: switch(config)# system urpf disable	(任意) スwitchの URPF をグローバルにディセーブルにします。

	コマンド	目的
ステップ 3	<pre>hardware profile unicast enable-host-ecmp</pre> <p>Example: switch(config)# hardware profile unicast enable-host-ecmp</p>	スイッチのホスト ルートの ECMP をグローバルにイネーブルにします。
ステップ 4	<pre>copy running-config startup-config</pre> <p>Example: switch(config)# copy running-config startup-config</p>	この設定変更を保存します。

ホスト ルートの EMCP 機能のディセーブル化

ホスト ルートの ECMP 機能をディセーブルにできます。

手順の概要

1. `configure terminal`
2. `no hardware profile unicast enable-host-ecmp`
3. `copy running-config startup-config`

手順の詳細

	コマンド	目的
ステップ 1	<pre>configure terminal</pre> <p>Example: switch# configure terminal switch(config)#</p>	コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<pre>no hardware profile unicast enable-host-ecmp</pre> <p>Example: switch(config)# no hardware profile unicast enable-host-ecmp</p>	スイッチ上のホスト ルートの ECMP をグローバルにディセーブルにし、関連するすべての設定を削除します。
ステップ 3	<pre>copy running-config startup-config</pre> <p>Example: switch(config)# copy running-config startup-config</p>	この設定変更を保存します。

ホスト ルートの ECMP 設定の検証

ホスト ルートの ECMP 設定情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います。

コマンド	目的
show hardware profile status	ハードウェア テーブルのユニキャストおよびマルチキャスト ルーティング エントリを表示します。
show running-config	実行システム コンフィギュレーションを表示します。

ホスト ルートの ECMP の設定例

次に、URPF をディセーブルにしてホスト ルートの ECMP を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system urpf disable
switch(config)# hardware profile unicast enable-host-ecmp
switch(config)# copy running-config startup-config
```

次に、ホスト ルートの ECMP をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no hardware profile unicast enable-host-ecmp
switch(config)# copy running-config startup-config
```

その他の関連資料

ホスト ルートの ECMP の実装に関する追加情報については、次の項を参照してください。

- 「[関連資料](#)」(P.10-4)

関連資料

関連項目	参照先
ホスト ルートの ECMP の CLI コマンド	『Cisco Nexus 3000 Series Command Reference』